

メールマガジン (2010年9月号・10月号 Vol.4)

(発行所) (株)エルエルアイ出版

〒103-0004 東京都中央区東日本橋 2-27-4 靴下会館7階

TEL 03-3868-0738 FAX 03-5809-3650

<http://www.lli-publishin g.com/>



パッシブハウスの逆ベタ基礎（茨城県石岡）

茨城県石岡市で茨城県産財を用いたパッシブハウスの建設が進んでいる。設計・施工は島田材木店。アドバイザーに(社)パッシブハウスジャパンの森みわ理事長。10月30日(土)・31日には一般見学会が開催される。パッシブハウスとは、ドイツのダルムシュタットにあるパッシブハウス研究所が1991年に定めた省エネ住宅基準に基づいて建てられた住宅のことで世界最高水準の

認定として知られる。近年では石造やRCが中心のドイツでも木造でパッシブハウス認定を取得する建築事例が増え、世界各国の気候に合った仕様を検討する国際協議会(PHA)もはじまった。日本では2009年に鎌倉パッシブハウスが初の認定を取得している。県産材を用いて、パッシブハウスを建てる取り組みは、昨年の山形県に続く取り組みで、国産材で

## 県産材でパッシブハウス 認定取得を公開(茨城県)

の認定は初となる見込みだ。こうした取り組みが各地で広まっている背景に、次世代の省エネスタンダードの施工技術を、国が新しい基準を定める前に習得しようとする業者が多いことが挙げられる。経済産業省が今年6月8日に定めた「資源エネルギー政策の見直しの基本方針」によると、2020年までにZEH(ゼロエネルギーハウス)を標準的な新築住宅するという施策アクションプランが設けられている。すでに一部のハウスメーカーではZEHの型式認定の開発も進んでおり、業者のパッシブハウス認定のニーズも高まっていると考えられる。

ホウ素系防腐・防蟻剤専門メーカーの(株)エコパウダー(埼玉県草加市/斎藤信夫社長)は、ホウ素系防腐・防蟻剤「エコボロンPRO(エコボロンエース)」と「エコパウダーBX」において、平成22年9月21日改正のJIS K1571・2010の附属書A(規定)の性能基準をクリアし、長期優良住宅とフラット35S

に適合し、さらに拡販に注力する方針を打ち出した。今回改正の目玉となった附属書A(規定)は「限定用途のための防腐性能及び防ぎ(蟻)性能試験」に関する規定である。この改正によって、長期優良住宅や住宅金融支援機構のフラット35Sが使えるようになったので、さらなる需要増が期待される。

## ホウ素系防腐・防蟻材 念願のJIS規格改正



エコパウダーBX®